

# 山梨県の峡東地域：フルーツの神様に恵まれた土地



マジョ・ルチア

山梨県国際戦略グループ  
国際交流員

2023年12月

山梨に引っ越して1年以上経ち、多くの隠れた名所を探索する機会に恵まれました。その中でも特に心に残った場所があります。それは、山梨県の峡東地域です。なだらかな丘陵が広がるこの土地は、新鮮な果物、美味しいワイン、そして息を呑むような風景を愛する人にとってのパラダイスです。



峡東地域は、約1300年前から始まっていたとされる豊かな果樹栽培の歴史を誇っており、日本のブドウ栽培発祥の地と言われています！その成功の秘訣は、この地域の特徴的な地形に完璧に適応した、ユニークで革新的な栽培システムにあります。近年、このシステムは、国連食糧農業機関（FAO）によって、世界農業遺産（Globally Important Agricultural Heritage System: GIAHS）に認定されました。この認定の詳細については、10月に掲載されたブラジルの同僚の記事（[日本語](#)）、または峡東地域農業遺産の公式ウェブサイト（[日本語](#)）をご覧ください。

ここからは四季折々の魅力あふれるこの地域を、私の個人的なおすすめスポットとともにご説明します。



# 春

## 日本の桃の楽園

笛吹市は峡東地域に位置し、桃の生産量日本一を誇ります。毎年、海外から多くの観光客が桜の幽玄な美しさを一目見ようと集まってきましたが、桃の花も同様に息をのむような光景を見せてくれます。



農カフェ・クール

鮮やかで濃いピンク色の花畑を想像してみてください。これは、笛吹市の春を彩る魅惑のタペストリーです。この花の美しさを間近で見するには、桃園に囲まれた魅力的なレストラン「農カフェ・クール」をお勧めします。ここでは、花々の魅惑的な美しさに囲まれながら、美味しい食事を味わうことができます。

さらに、見る楽しさはこれだけでは終わりません。山肌に刻まれた曲がりくねった田舎道「フルーツライン」からは、鮮やかなピンクの花に埋め尽くされた甲府盆地のパノラマが広がります。さらに、雪を頂いた雄大な富士山が背景となり、絵に描いたような光景が完成します。

サイクリストにもバイク乗りにも人気のフルーツラインは、笛吹市を訪れるなら間違いなく外せないコースです。曲がりくねった道やブドウの木が連なる風光明媚な景観を楽しみながらこのルートを走ると、まるで南イタリアを彷彿とさせる世界が広がります。ロマンチックなドライブにも、自分探しの一人旅にもぴったりの舞台です。



フルーツライン

山梨県（特に峡東地域）は日本のブドウ王国でもあり、この地域ではブドウの生産に最適な貴重な土地を余すところなく活用しています。家屋とブドウ畑が織りなして、夏になると、ブドウの葉っぱが一面に広がり、土地全体を覆い尽くします。これは、海外で家屋と畑は別の土地に分けられているため、この光景はとても珍しいです。



ブドウ畑には鮮やかなエメラルドの葉で飾られた頭上のパーゴラが日陰を作り、まるで虹色のブドウの房が宝石のようにぶら下がっています。「甲州」の繊細な味わいから「巨峰」のジューシーな甘さまで、この肥沃な土地では多様な土着品種のブドウが繁栄しています。

夏になると、多くの農家が果樹園を一般開放し、ブドウ狩りができるため、忘れられない体験ができます。ブドウの木のタペストリーの下で、頭ほどの大きさのブドウの房を見ながら、カゴにいっぱいブドウを詰める自分を想像してみてください。

ブドウの中でもシャインマスカットという品種が、日本のブドウの王様として君臨しています。この絶妙な緑色の品種は、種がなく、皮ごと食べられるキャンディーのような甘さのブドウで、爽やかな甘さが溢れます。

高級なものだと、一房数万円にもなることもありますが、一般的には3,000円程で購入でき、お土産として多くの人に購入されています。





11月以降になると、竹竿に吊るされた鮮やかなオレンジ色の「点」がずらりと並び、家の正面に飾ったり、家屋やアパートの物干し竿に飾ったりする光景に魅了されることでしょう！

柿には、主に甘柿と渋柿の2種類に分かれています。甘柿は生のままでも美味しく食べられますが、渋柿は1ヶ月間干すことで味が変化し、甘みが出てきます。

「甲州百目」は、平均375グラムもある巨大な紅柿で、干し柿として人気があります。中にはなんと500グラムに達するものもあります！



桃やぶどうの産地として有名ですが、峡東地域には秋の隠れた名産品である干し柿があるのをご存知ですか？ 峡東地域では、何世紀にもわたって柿を干す伝統が受け継がれてきました。

400年以上もの間、峡東地域の農家は、柿を干すのに最適な条件である山のそよ風と豊かな日差しを利用して、この理想的な気候がユニークな美味しさを生み出しています。



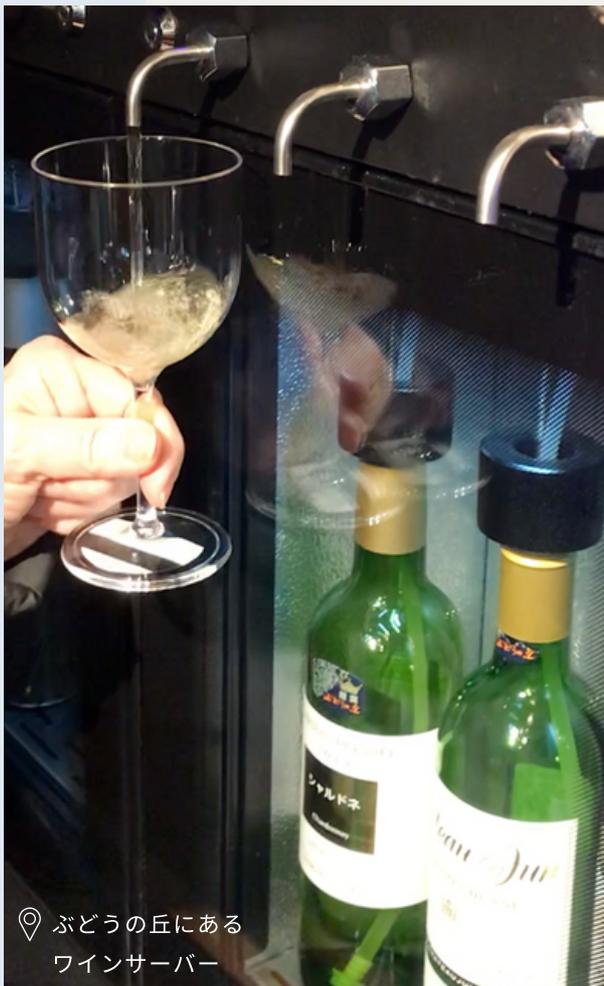
また、鮮やかな秋の風景とともに、歴史的建造物に触れるのであれば、「もしもしの家」がおすすめです。上條集落にあるこの美しく保存された「突き上げ式」の茅葺き屋根をもつ古民家は、往時を垣間見ることができる貴重なスポットです。2015年には、上條に残る数少ない古民家が文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」に認定されました。

# 冬

## ワインの都でヴィノ（ワイン）を堪能し、心も温まろう

山梨県は、2019年に「ワイン県」を宣言し、日本国内で最も多くのワイナリーを擁する県となりました。その中でも、峡東地域には60軒以上のワイナリーが集積しており、風光明媚な景観とともに、活気あるワイン文化を育んでいます。

峡東のワイン文化の歴史は、はるか昔に遡ります。この地域では19世紀後半からワイン造りに取り組み、伝統的なワイン用のブドウ品種に適さない湿度の高い気候や、外国産の飲料に馴染みのない文化などの困難を乗り越えてきました。



ぶどうの丘にある  
ワインサーバー



ぶどうの丘のテラス

地元の葡萄栽培者たちは、「甲州」などの品種を選び、「甲州式棚栽培」などの技術革新によって、この地域特有の環境で成功を収めました。その結果、地元の味覚とテロワールを反映した個性的な日本ワインが誕生し、ユニークなワイン産地として確立されました。

是非日本のワインの都、甲州市勝沼町へお越しください。ここには雄大な「ぶどうの丘」があり、そのユニークな宝物であるワインサーバーがずらりと並んでいます。わずか100円で、テイastingを楽しみながら、峡東ワインのニュアンス豊かな味わいと独特の個性を発見することができます。

テラス席でワインを飲みながら、甲府盆地を一望しましょう。息を呑むような絶景とさわやかな山の空気は、ワインの味わいをさらに引き立ててくれます。冬には、真っ白な雪に覆われた雄大な南アルプスの絶景を眺めることができます。

この記事を通して、峡東地域への愛を、少しでも多くの人に伝えることができれば幸いです。是非、この特別な場所を訪れて、その素晴らしさをご自身で体験してみてください。